

第7期鹿追町総合計画策定会議専門部会議事録

専門部会名	教育専門部会（第3回）	議事録作成者	企画課企画係 係長 迫田 明巳	
開催日時	令和5年9月26日 10:00 ~ 11:30			
開催場所	町民ホール2階セミナーA			
委員 事務局等 出欠	出	部会長 神谷 秀俊	出	学校教育課長 宇井 直樹
	出	副部会長 俵谷 俊彦	出	社会教育課長 平山 宏照
	出	委員 上野 精嗣	出	学校教育課主幹 天野 健治
	出	〃 上嶋 浩二	出	企画課 迫田 明巳
	出	〃 大下 洋美		
	出	〃 中谷 桃恵		
	出	〃 足利 正治		
	欠	〃 佐々木睦美		
その他出席者	学校教育課 シンボ・グレン			
1. 部会長挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神谷部会長 「与え続ける教育」から「子どもが自ら考える教育」という話が天野主幹からもこれまでであったところ。どのようなことができるのか皆さんで考えてもらいたい。</li> </ul>			
2. 説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 天野主幹 ①課題解決から探求へ ②鹿追高校魅力化 ③国際バカロレア 「鹿追町の食育」が課題としたブレインストーミング体験（課題出し、アイデア、解決策について）</li> <li>● 鹿追高校 俵谷校長 鹿追高校で行っている探究の学習について</li> </ul>			
3. 討議	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鹿追町教育大綱の基本的な政策 15項目についてフリートーク</li> </ul>			
4. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宇井課長 教育大綱の内容を踏まえつつ、これまでいただいたみなさんの意見を参考にしながら、担当課の方で基本計画の見直し案を作成していきたいと考えている。 一度まとまったら郵送をさせていただくので、ご覧いただき、ご意見いただければと思う。</li> </ul>			
発言者		主な発言内容		
天野主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校の有無が人口増減に与える影響は、病院に有無が人口増減に与える影響よりはるかに大きいという結果が出ている（資料に沿って説明）。鹿追町は、鹿追高校を存続させるということで取り組みを進めている。地方の学校は今追いついていない。今の学校の役割は、子どもたちに課題を解決させる力を身に付けさせること。地方には課題が多く、そして子どもたちが少し背伸びすれば関わっていけそうな課題も多い。また、子どもたちがそういったことに取り組むときにサポートする地域の関係者も密接である。</li> </ul>			

<p>俵谷副部長</p> <p>天野主幹</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「課題を自ら考える力」「主体的に自ら取り組む力」が身に付いたかと鹿追高校の生徒に聞くと9割以上はそうだという。4年前から取り組んできた「探究」の授業の成果である。「探求」とは課題を自分の頭で考えて解決すること。</li> <li>● 鹿追高校では探究の授業のために16名のプロボノメンターが関わってくれている。そういった活動の中から、生徒たちが主体的にeスポーツ部の創設、兼部の取り組みなどを進めてきた。</li> <li>● 鹿追中と瓜幕中では、国際バカロレアの認定に向けて動いている。認定のポイントは「授業がきちんと探究になっているか」ということ。</li> <li>● (小中学生の国際バカロレアのテーマについて説明) 課題を自分で見つける取り組みというのがバカロレアである。</li> <li>● (国際バカロレアで子どもたちに身に付ける力について説明)</li> </ul>
<p>宇井課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育大綱の基本的な政策15項目については前回説明させていただいた。学校教育の部分、社会教育の部分、両方が関わる部分がある。最後に時間をとらせていただくので、皆さんが普段感じていることや、記載された政策についてご意見などあれば、討議していただきたい。</li> </ul>
<p>中谷委員</p> <p>迫田係長</p> <p>足利委員</p> <p>シンボ職員</p> <p>宇井課長</p> <p>俵谷副部長</p>	<p><b>グループA</b> <b>(俵谷副部長、中谷委員、足利委員、宇井課長、迫田係長)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学の授業のように子どもたちが選択していくような仕組みがあって、小規模の学校の子どもたちともそういった選択の中で交流できるようなことがあるといいのかなと思う。</li> <li>● 自分の子どもは人数が少ない世代なので年中からずっと同じ同級生のメンバー。もっと他の子どもと交流する機会があってもいいと思うし、最近は担任の先生だけでなく、教科の専科の先生が増えているのか、沢山の先生と関われる機会があってもいいと思う。</li> <li>● 中学校では、小さな小学校から来た子どもたちが、なかなかうまく溶け込めないようなこともあるように聞いているので、そういった観点からもよいのではないかなと思う。</li> <li>● 学校や自治体の名前は言わないが、10人規模の学校だと、学校の全員が家族のような関係になっている。そのようなところから大きな中学校や高校に行ったときに、ダウンしてしまう。学校に行けなくなってしまう。であれば、そもそも小学校から同じ学校にした方がいいのではないかなという話にすると、それではその地域の小学校はいらなくなるという話になる。先ほどのように選択して学校を行き来するような仕組みは公立だからこそできるのではないかなと思う。</li> <li>● 小さな学校ならではの少人数教育というのはメリットだと思っていたので、今のような話は少しショッキングである。</li> <li>● 自分の子どもたちも小さな規模の学校だったので少しでもいろいろな環境を作ってあげた方がいいと思う、町外のスポーツ活動などに参加した。夫婦に時間的余裕があったからできたことで、全ての家庭ができるわけではないと思う。</li> <li>● 学校以外の少年団活動のようなこと。地域を活用して、子どもたち</li> </ul>

足利委員	<p>の心の拠り所を作っていくようなことが必要と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バカロレアの導入ということについてはとても興味深く考えており、今回参加させていただいたところもある。「自己管理」と「協調性」というのがバカロレアのテーマと思う。それは日本で生まれたものはない良い仕組み。そこに日本式のものを組みあわせていくと良いものができるのだと思う。</li> </ul>
俵谷副部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交流授業のようなものは小学校高学年になってくるとハレーションも生じてくる。学校単位とかで強制的に実施するのではなく、選択肢を作っていくのが良いと思う。交流するという選択肢。例えば、希望者は1週間ほかの学校に留学できる。色々な学校に行ってみる。そういった経験が必要。</li> </ul>
足利委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもに自ら組織やシステムを作らせることはできないので、スイッチを押してあげて後押しをしてあげることが大切。</li> </ul>
俵谷副部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校の留学もいろいろなところから来る。是非、地元の人と仲良くなしてほしい。地元の人家に呼ばれて一緒にご飯を食べるような機会を作っていきたい。今はそこが弱みで課題。そこをコーディネートする仕組みが必要。</li> </ul>
足利委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● そういったことをやってくれる人はたくさんいると思う。ただし、システムをどう作るかという問題もある。</li> </ul>
俵谷副部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鹿追高校の未来留学サポーターという制度もある。</li> </ul>
足利委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鹿追と瓜幕に中学校がある。子どもたちも分かれていて勿体ないと思うことがある。お互いにどういったことをやっているか認識していない。瓜幕にいと鹿追高校の仕組みもよく認知されていない。町に1つしかない高校なのに臨場感が無い。しかし、瓜幕の受入れの仕方が悪いとも思ってはいない。</li> </ul>
俵谷副部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私が奥尻高校にいた時には、子どもたちを呼んで町内会に連れていき紹介するようなことを行った。</li> </ul>
中谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ちなみに高校生が開発した食品はどこかで売っている？</li> </ul>
俵谷副部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一部、季節限定のものもある。</li> </ul>
シンゴ職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先日、道の駅に行ったときには、現在は売っていないということもあって残念だった。</li> </ul>
俵谷副部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先日、町に対する総合戦略の評価意見として、特産品の指標が必要だという意見を提出し。特産品を開発していきたいというのであれば指標が必要。</li> </ul>
足利委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2、3年かかるかもしれないし、お金もかかるかもしれないが、町の姿勢や覚悟が必要だと思う。高校生が開発したもの、開発して終わりなのか？それではただ町や関係者の負担が増えるだけ。それをこれからどうしていくのが大事。そこに関わる人にお金を使っていく仕組みや、そこにどう子どもたちをつなげていくかが大切である。</li> </ul>
大下委員	<p><b>グループB</b> (神谷部長、上野委員、上嶋委員、大下委員、平山課長、天野主幹)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 帯広市大空にある学校の成果を新聞などで読んで興味を持っています。</li> </ul>

天野主幹	● 大空学園義務教育学校ですね。小学校と中学校が合わさった学校で、特色ある教育がされています。
上野委員	● 今の教育は私たちの昭和の教育から大きく進化し「考える教育」になっている。
天野主幹	● 子どもたちにも探求を中心とした新しい教育が行われていますが、学校の先生にも変化が求められており努力と工夫が続けられています。
上野委員	● 鹿追町においては先進的で国際基準をもとに授業が行われていますが、町外へ転勤された先生からのお話では鹿追町での感覚で「考える授業」を進めたところ、生徒が付いてこれなかった、という経験も聞いています。鹿追は進んでいることを実感されたようです。
天野主幹	● これまでの答えが決まっていて、その答えを出すための詰め込み教育は時代遅れとなっている。決まった答えのない課題を自ら考え解決していく能力が、これからの国際的社会的のためにも重要となっている。
平山課長	● 環境や食料問題にしても、一地域だけの取り組みでは解決できない規模になっている。地球的な規模で考え、人や国が協力しないと解決できなくなっています。
上嶋委員	● 私たちの時代とは発想が違う教育内容で素晴らしい教育がされているのですね。
平山課長	● 私の子どもが学校でどのような教育がされているのか保護者の私でも理解している自信がない。ましてや地域の方々はまだ知らない人がいるのではないのでしょうか。
上嶋委員	● 広く町民の方々にも知っていただきたいですね。もったいないです。
平山課長	● P T A研修会などの行事でも取り上げてもいいかもしれませんね。
天野主幹	● 町教育大綱の施策の中には、探求教育の充実ほかに、起業家教育やイノベーションを担う人材育成も挙げられています。
平山課長	● もともと日本には、トヨタやホンダ、ソニーなど夢にあふれた起業家がいたはずだったのに、今では特に I T分野で海外に押されていますね。
天野主幹	● 今までは与えられたものを勉強するという受け身でしたが、これからは自ら考え答えを導くことが重要となってきます。
平山課長	● 近い将来は多くの職業が必要なくなり、その代わり私たちが想像できないような新たな職業が生まれるといわれています。
天野主幹	● ある学校では「もっとも美しい数字はなんでしょう」という課題が出されたそうです。
上野委員	● 私は「1 2」かな。2や3、4、6と多くの数字で割り切れます。そして月の変化などが1 2という数字に関係しており、時間や暦も1 2が単位となって使われていますね。
天野主幹	● いきなり決まった公式などを覚えさせるよりも、そうしたアプローチだと数学嫌いも少なくなるのではないのでしょうか。
平山課長	● これまでの皆様からの幅広いご意見などを総合計画の改定に盛り込んで案を作りますので、よろしく願いいたします。

